

2023年11月

第158号

ぱれっと



(株)北日本ベストサポート
Tel. 018-883-1888

「藤井聡太」前人未到の快挙

将棋界のビッグタイトルを若干 21 歳の藤井聡太竜王が「八冠を独占」するという偉業を成し遂げた。

10月11日永瀬拓矢王座(31)が保持し今回タイトルを防衛すれば永世王座の称号が得られ、藤井竜王が五番勝負に勝利すれば8ビッグタイトル制覇のかかった大一番、王座戦は五番勝負で3勝すれば王座となる。本局は藤井竜王の2勝1敗で迎えた4局目。終盤AIによる予想では99%永瀬王座が優勢と出ていたが永瀬王座の一瞬の隙を逃さず藤井竜王が大逆転の勝利を収め将棋界のビッグタイトル八冠を手中に収めるという前人未到の快挙となった。

なお、藤井八冠のタイトルの軌跡は棋聖(2000年)、王位(2000年)、叡王(2021年)、竜王(2021年)、王将(2022年)、棋王(2023年)、名人(2023年)の七冠に今回の王座を加えてビッグタイトル八冠を獲得したものである。

過去に将棋界のビッグタイトルを独占した棋士は1957年に升田幸三(39才3か月、名人・王将・9段の3タイトル)、1963年大山康晴(39才10か月、名人、王将、王位、棋聖、十段の5タイトル)、1996年羽生善治(25才4か月、竜王、王位、棋王、棋聖、名人、王座、王将の七冠)の3人で八冠制になってからは藤井竜王が初めての全タイトルを独占した。

ここで藤井八冠の少年時代からの生い立ちを振り返ってみると、2007年の夏5歳で母方の祖父母に将棋の手ほどきを受け、同年12月に瀬戸市内の将棋教室に入会した。同教室では「500ページの『駒落ち定跡』を渡され読み書きがまだできないときに符号を頼りに内容を理解し、本人の希望で3時間の教室の時間を4時間に延長し勉強した。2010年には小学生で東海研修会に入会し、後に師匠となる杉本昌隆八段に出会い、その後弟子となる。2011年8月小学校3年生で第10回全国小学生倉敷王将戦低学年の部で優勝。2012年6月に研修会B1に昇級、9月に4年生で新進棋士奨励会に入会(6級)、関西奨励会に通い、小学6年生で史上最年少の初段となりその後二段に昇段。2015年3月詰将棋選手権で史上最年少優勝、2019年まで5連覇。2015年10月13歳で史上最年少奨励会三段に昇段。2016年10月14歳2か月で四段に昇段プロ入りを果たす。プロ入り後連勝記録29連勝など数々の最年少記録を塗り替えてきた。

師匠の杉本昌隆八段は「どんな険しい道でも臆せず挑戦し、考えた末に必ず正解にたどり着く、『人間力』を大切にこの八冠がゴールではなく自らの信じる道を進んで欲しい」と語っている。今後は追われる立場。努力、深く正確な読み、負けず嫌い、反省する心。を大切に、更なる活躍を期待したい。

いま、成長の芽はどこにあるのか



元慶應義塾大学 名誉教授 村田 昭治

「巡り合いの不思議」

成功した経営者や偉大なリーダーは、自己語りのなかで、人生は深い縁の不思議な出会いが自分をつくったとおっしゃっている。たった一度の巡り合い、たった一人とのほんの少しの巡り合いが自分をすっかり変え、意欲的で、前進力と突進力と爆発力と謙虚な心を併せもつようになったと述懐されている。あらゆる人が、さまざまな巡り合いに平等に当たっているのかもしれない。ただ、それに気づいたか見すごしたか、それを天啓と感ずるかどうかが大きな差になったのかもしれない。

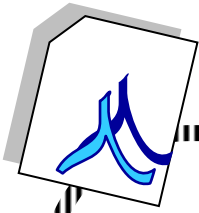
成功した経営者に、出会いをどう活かされたかをうかがった。どの経営者もゴールの置き方、挑戦の仕方、事の運び方、提案の仕方には、エキサイティングな時を求め夢を追いかけて人生を送るという気合が込められており、エキサイティングに希望を実現していくプロセスのなかで出会った人の想いに勇気を与えられて、プロフェッショナルな行動に入っているようだ。成功した経営者に共通している素養は、フランクでものに捉われない自由奔放な考え方をもち、わがままに思えるぐらいでもその考え方が独自の発想につながり、ことばの使い方、表現がきわめてクリアなことであった。



「プロフェッショナルリーダーの八つの心得」

1. 企業人の原点は商人。人間のお世話をし、得意な仕事を通じて人間社会に貢献すること。
2. 自社のコア コンピタンスに自信を持ち、持続的に深く広く磨きあげ、差別的な優位性を維持すること。
3. すさまじい勉強と努力をして、ドミナントに秀でた提案力を示すこと。
4. 顧客満足に飽きたらず、顧客感動(カスタマー ディライト)を目標にすること。
5. 責任の所在を明確にし、ポジティブな姿勢で前へ前へと進むこと。
6. 感謝を忘れず逃げない経営、顧客を退屈させない営業活動を怠らない、選びぬかれた企業をめざすこと。
7. 企業社会の基本は正直さ、公正さ、明るさ、そしてサービス力をベースに華がある仕事作りをし、メッセージを社会に発信し続けてサポートすること。
8. コーポレート ガバナンス、コンプライアンスを底辺に、企業のアクション マニフェスト作りで株主、ステークホルダーの強い支持を得ること。

【「人を惹き付ける経営」より】



マーガレット・ミッチェル (アメリカの小説家)

- 1900年11月8日 米国ジョージア州アトランタ市に生まれる。
父はユージン・ミューズ・ミッチェル、母はメーベル。父は弁護士でアトランタ弁護士会会長。
幼年期に南北戦争を体験した親類の影響を受けた。
- 1918年 ワシントン神学校を卒業。その後、医学を志しマサチューセッツ州ノーサンプトンのスミス大学入学。
- 1919年1月 母が大流行したインフルエンザで死去。ミッチェルは学業を断念。アトランタジャーナルに入社。日曜版のコラム執筆者となった。
- 1926年 踝くるぶしの骨折で寝たきり生活を送り、その間、夫の薦めもあり自分の人生体験を叙事詩に綴った。それが始まりで、療養中の楽しみとして創作を見出し、「風と共に去りぬ」の執筆に入った。
- 1929年 踝は完治し、小説もほぼ完成していたが創作活動の意欲を失っていた。
- 1935年 南部地域で有望な作家を探していたマクミラン出版社のハワード・ラザムはミッチェルの原稿を読み荒削りな部分もあるが大ベストセラーになると確信。
- 1936年6月30日 「風と共に去りぬ」は出版され。100万部を越える大ベストセラーとなった。その後25カ国で出版されピュリッツァー賞を受賞した。映画化にもなった。
- 1949年8月11日 アトランタのアーツ劇場へ出かける途中交通事故に会い5日後に死亡。享年48歳。

オススメの *BOOK*



「偽情報と独裁者」

作者 マリア・レッサ 訳者 竹田 円 出版社 河出書房新社

著者はフィリピン人。母が米国へ移住していたこともあり米国の大学卒業。職業は国際ジャーナリスト。当初 SNS など好意的に対応していたが、次第に商業主義となり時の権力と結びついて、偽情報など頻繁に放映することとなり、さらに時の権力は自分に不利な情報の報道を規制の対象とするようになる。フィリピンの大統領や政府機関は架空の罪を捏造し作者を罪に陥れようとする。

そうした現実と果敢に戦った内容をまとめたものが本書である。本人は沢山起訴され現在も戦い中。21年ノーベル平和賞を受賞している。



人生100年時代に欠かせない考え方「WPP」

最近話題になっている言葉に「WPP」というものがあります。大手生命保険会社に勤める谷内陽一氏が数年前から提唱する考え方で、老後の生活をまかなうために重要な三つのキーワードの頭文字を取っています。

W	・・・「Work Longer」	長く働くこと
P	・・・「Public Pensions」	公的年金
P	・・・「Private Pensions」	貯蓄や投資

老後の資産形成は、自分のライフプランに合わせて三つを柔軟に組み合わせることになりますが、考えていただきたいのはその優先順位です。

年金の受給開始年齢は原則65歳ですが、60歳から75歳まで繰り上げや繰り下げができます。仮に70歳まで働いて年金受給を70歳からにすると、受給額は額面で42%増額されます。したがって、年金を受ける前に、まず長く働くということがとても大切なのです。

ところが一般に重視される順位は逆で多くの人は「老後が不安だから」と、自分で貯蓄や投資に励もうとします。それは悪いことではありませんが、何歳まで生きるか分からず、どれだけ蓄えればいいのか分からない中では限界があります。

できるだけ長く働き(W)、死ぬまで受け取れる公的年金(P)を生活の基本に置く。ただ、それだけでは海外旅行などお金のかかる楽しみを実現するのは難しいので、そういうライフスタイルに必要であれば自分で蓄え(P)を作っておく。「WPPの優先順が大事」とはそういうことです。自身のライフプランに合わせWPPの優先順位を考えてみてはいかがでしょうか。

【編集後記】

あんなに暑かった日々が不思議に思えるくらい、最近は朝夕涼しくなり、やっぱり季節の変化を感じる。それにしても今年の秋田は異常な年だった。

夏の観測史上最高を記録した連日の高温。秋田市では経験したことのない大雨による川の洪水と内水氾濫での被害。秋になったら気象のためか「どんぐり」が不作で熊が毎日のように人里にも姿を現し過去最高の人への被害が出ている。

これが異常事態なのか将来当たり前になるのか不気味だ。備えあれば憂いなし、どんな事態にも対処できるよう準備万端整えておきたい。